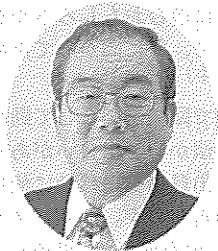


学校風景



「おおかみこどもの雨と雪」

同窓会長 伊東尚志

常日頃から同窓会活動に温かいご理解とご協力をいただいておりますこと、心より感謝申し上げますと共に同窓会員の皆様にはますますご壮健でご活躍のことをご推察いたします。

さて、上市町では昨年より観光振興に取り組んでおりますが、特産品の開発では特産のサトイモの親イモを使った焼酎や最近栽培に取り組んでおります生姜を使ったシロップを開発しました。特に上市商工会女性部が開発した生姜シロップ「上市でしようが」は先日ベルギーで開催された国際味覚審査機構で「金星2つ」受賞しました。また、上市町出身のアニメーション映画監督、細田 守氏

の最新作品「おおかみこどもの雨と雪」が7月21日より全国の映画館で上映されております。本作品は、親と子の絆をテーマに剱岳を中心とした上市町や富山県内の風景・大自然をイメージして描かれた作品となっております。町では、この映画をそして世界で活躍する細田監督を応援していきたいと考えております。

同窓会員各位には、母校が元気な町に立地するとの使命から存在感を充実させていきます。表裏一体としてご理解とご協力をお願いいたします。併せて、重ねて母校の発展と会員各位のご多幸祈念申し上げ、ご挨拶いたします。



偉大な同窓生に感謝の夏

教頭 細川 真沙子

この夏、第36回全国高等学校総合文化祭が富山県全域を会場として開催された。上市町北アルプス文化センターは、吟詠剣詩舞部門の会場となり、上市高校が担当となった。生徒120名と職員37名が、運営要員として大会を支えた。

この4月に赴任したばかりの私は、会場地代表として少なからず不安があった。それを私拭してくれたのは、多くの上市高校同窓生の方々であった。町長でもある同窓会長伊東尚志氏は、地元上市町の強力なバックアップを約束してくださった。その言葉通り、各方面からのご協力やご助言をいただき、成功に導いてくださった。

そして、「全国から来る高校生に、おいしいコシヒカリのおにぎりを食べてもらいたい」というお申し出をしてくださったタイワ精機会長の高井芳樹氏。高井氏は、昭和28年の普通科卒業生で、生徒会長も務められた。昭和23年から29年までは、普通科小学区制の時代で、本校卒業生は、富山大学はもちろん、東大、京大、一橋大など国立大学や有名私大に多く進学している。高井氏は富

大教育学部出身でありながら、教員の道に進まず農業機械メーカーに嘆願入社されたという。工学部や経済学部で学ぶべき事を、独学や実践で身につけ、その後独立して、タイワ農機（タイワ精機の前身）を設立された。近年はコメの無農薬有機栽培の成果など、新聞、雑誌等で盛んに取り上げられている。

高井氏とのお話の中で、「コシヒカリの父」といわれる杉谷文之氏の存在を知った。彼は、上市高校の前身である上市農学校の出身である。京都大学農学部を卒業後、農林省から新潟県農業試験場に迎えられ、コメの品種改良に貢献され、今日のコシヒカリを生み出されたのである。

今大会で、高井氏から提供されたおにぎりとお米のハト麦茶は、全国からの参加者のみならず、来場者、係員も味わうことができた。氏の篤志に心から感謝の意を表したい。

私自身のことには話を戻せば、昭和59年4月から平成9年3月まで本校に一度赴任している。13年間に4度卒業学年を担任した。

二度目の赴任で、また違う時代を過ごす生徒と出会えた。さらに、今回の全国高総文祭を通して、様々な同窓生の方々との出会い、上市高校の歴史の重みを再認識することができた。本校の偉大な同窓生の業績を、今後も語り継いでいこうと決意した夏であった。



母校

教諭 碓井 かおり

私は、ちょうど昭和から平成に変わる頃、この上市高校の農業科に入学しました。

そして、24年後の4月、懐かしい桜並木を通り抜け、上市高校の門をくぐることになりました。

あの頃と変わらない校舎。でも、ちょっと足を伸ばした農場はというと、そこは大きく変わっていました。懐かしさの中に寂しさを感じずにはいられませんでした。

高校3年の時、担任の先生から「日本学校農業クラブ富山県連盟の会長になってみないか？」と声をかけられました。「富山県の農業クラブ会長に!?」クラス会長の経験もない私でしたが、不安の反面、貴重なチャンスを生かしたいというそれに勝る思いがあり、思い切って引き受けました。県内の農業クラブ初の女性会長として取り組む事になりました。それを機に、根拠のない自信？から「農業を教えられる先生になりたい」と思うようになり、夢を見はじめました。現職の細川教頭先生、農業の藤壺先生には、当時から、陰に陽にお世話になりました。（お二人とも今も変わりなくお若い！）今思うと、

上市高校の先生方との出会いが人生の分岐点であったのかもしれませんが。「農業」に潜むおもしろさや奥深さを体感させていただいたことで、夢に向かって進めたのだと思っています。

昨年まで、南砺福野高校で臨任講師として勤務していましたが、実は、そこでも懐かしい出会いがありました。それは、上市高校で丸山農場への移動に使用されていたバス「つるぎ号」との再会です。そのバスが、福野高校では、「みどり号」と名前を変えて、母校から遙々離れた呉西の地で生徒の足となっていたのです。卒業してから14年が経過していましたが、ここで、「つるぎ号」（改め「みどり号」）にお世話になろうとは思いませんでした。私が学生時代に乗ったバスに、福野高校の生徒と一緒に乗ることが出来た嬉しさはひとしおでしたが、それとは裏腹に、バスが上市高校生を乗せて走ることがないという思いで一抹の寂しさを感じたのも事実です。

私が、母校の満開に咲いた桜並木道を通うことができたのは、何よりもたくさんの先生方、生徒たちの支えと手助けがあったからこそだと感謝しています。母校に残るグリーン系列で、上市高校で学ぶ生徒の皆さんに、農業の大切さを知ってもらうことが、私の母校に対する恩返しになると思っています。そして、母校の後輩には、農業が繋ぐ人と人との出会いを大切にできる大人になって欲しいと願います。